

2023 年度 研究サマリー

研究会名称	ROD-21 研究会	
代表者所属	福岡腎臓内科クリニック	
代表者氏名	谷口 正智	
<研究方法> 慢性腎臓病に伴う骨ミネラル代謝異常（CKD-MBD）に関する知見に関して，他施設の医師に参加いただき，若手医師の新規研究について考察することや，他分野のスペシャリストの先生を招請して年 2 回の研究会を開催している。		
<研究成果> 2023 年 1 月 28 日 第 43 回 ROD-21 研究会を開催した（神奈川県横浜市）。 一般演題 演題 1：「クエン酸第二鉄の製剤学的特性と非臨床プロファイル」（日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所 生物研究所 飯田聡夫） 演題 2：「近位尿細管胞における β 酸化活性はリン毒性に対抗する」（大阪大学大学院医学研究科 腎臓内科 勝間勇介） 基調講演 「腎が障害されると骨はどうなるか？それに対してどうするか？」（福島県立大学医部 腎臓・高血圧内科 主任教授 風間順一郎） 特別講演 1 「副甲状腺機能亢進症の手術適応と外科的治療」（藤田医科大学内分泌外科 教授 日比八束） 特別講演 2 「CKD 患者の骨折予防と新たな潮流」（島根大学医学部臨床検査医学講座 准教授 矢野彰三） 2023 年 8 月 26 日 第 44 回 ROD-21 研究会を開催した（福岡県福岡市）。 一般演題 講演 1．「腎移植後 tertiary hyperparathyroidism の予測モデル」（日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 移植内分泌外科 岡田学） 講演 2．「低浸透圧環境が血管石灰化を促進する多面的機序」（九州大学大学院医学研究院 松枝修明） 基調講演 The debate：CKD-MBD ガイドライン管理目標値を議論する 講演 1．「Ca・P の管理目標値はどうすべきか？」（神戸大学大学院医学研究科 腎臓内科／腎・血液浄化センター 助教 後藤俊介） （次ページへ続く）		

講演 2

「PTH はどこまで下げるべきか？」（東海大学医学部 腎内分泌代謝内科 准教授 駒場大峰）

特別講演 1

「骨細胞を起点とした骨質指標としての骨基質配向性と力学応答」（大阪大学大学院工学研究科 マテリアル生産科学専攻 教授 中野貴由）

特別講演 2

「多様なリスク因子に基づく骨量・骨質低下の機序と対策－骨粗鬆症 AI ソフトの開発臨床実装から質量分析によるリスク評価まで」（東京慈恵会医科大学 整形外科科学講座 主任教授 斎藤充）

<掲載雑誌>

1. Okada M, Tominaga Y, Izumi K, et al: Tertiary hyperparathyroidism resistant to cinacalcet treatment. Ther Apher Dial 2011;15 Suppl 1:33-7
2. Goto S, Hamano T, Fujii H, et al: Hypocalcemia and cardiovascular mortality in cinacalcet users. Nephrol Dial Transplant 2024;39(4):637-647.
3. Komaba H, Hamano T, Fujii N, et al: Parathyroidectomy vs Cinacalcet Among Patients Undergoing Hemodialysis. J Clin Endocrinol Metab 2022;107(7):2016-2025
4. Saito M, Marumo K : The Effects of Homocysteine on the Skeleton. Curr Osteoporos Rep 2018;16(5):554-560
5. Saito M, Kida Y, Kato S, et al: Diabetes, collagen, and bone quality. Curr Osteoporos Rep 2014;12(2):181-8.